

2015年3月期

決算説明会

The image shows the illuminated logo of GSI YUASA on the facade of a building at night. The logo consists of a stylized 'G' followed by 'SI YUASA' in a bold, sans-serif font. The letters are backlit, creating a bright glow against the dark brick wall and the deep blue twilight sky. The building's facade is made of dark bricks, and the overall scene is captured from a low angle, looking up at the structure.

2015年5月12日

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション

I . 2015年3月期決算状況

- | | |
|---------------------|------|
| 1. 業績の概要 | P.03 |
| 2. 売上高・利益 | P.04 |
| 3. セグメント別業績 | P.06 |
| 4. 貸借対照表 | P.12 |
| 5. 設備投資・減価償却費・研究開発費 | P.13 |
| 6. キャッシュ・フロー計算書 | P.14 |

II . 2016年3月期業績予想

- | | |
|---------------------|------|
| 1. 経営の基本方針と重点課題 | P.16 |
| 2. 売上高・利益 | P.17 |
| 3. 経営目標 | P.18 |
| 4. セグメント別業績 | P.19 |
| 5. 設備投資・減価償却費・研究開発費 | P.20 |
| 6. セグメント別事業課題 | P.21 |

III . コーポレートガバナンス

- | | |
|----------------|------|
| 1. 社外取締役・買収防衛策 | P.30 |
|----------------|------|

経営環境

国内経済は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動減による影響が和らいできているものの、個人消費が伸び悩むなど景気回復の動きは依然緩慢な状況の中で推移した。

世界経済は、中国では投資の低迷などから景気減速の傾向であったが、米国では堅調に推移し、欧州でも緩やかな回復基調が続いている。

業績の概要

第2四半期まで、車載用リチウムイオン電池や東南アジアを中心とした鉛蓄電池の販売増加を背景に、売上高・利益は順調に推移した。第3四半期以降、自動車用鉛蓄電池の総需要が低迷、また車載用リチウムイオン電池の販売が減少した。

通期では、売上高は車載用リチウムイオン電池の販売が増加、また連結範囲の拡大によるアジア地域での事業基盤強化を図ったこと、円安による影響などにより、過去最高となった。利益は、車載用リチウムイオン電池の販売増加に伴う利益改善に加え、海外における売価改善への取り組みなどにより、営業利益、経常利益で過去最高となった。また、当期純利益は連結子会社における特別損失44億円を計上した結果、微増にとどまった。

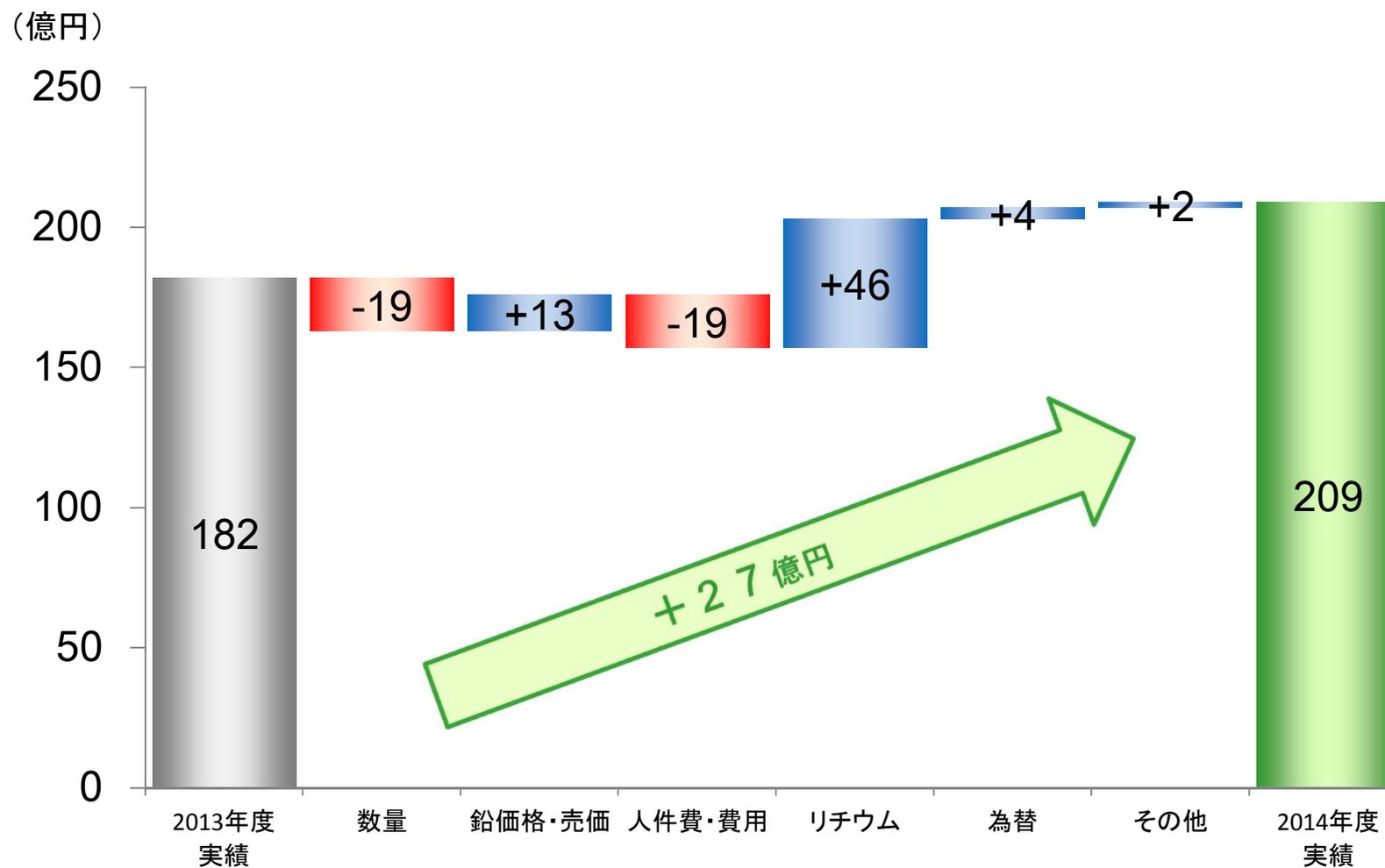
2. 売上高・利益

(億円)

	2013年度	2014年度	増減 (前期比)
売上高	3,480	3,698 <small>過去最高</small>	+218 (+6.3%)
営業利益 (営業利益率)	182 5.2%	209 <small>過去最高</small> 5.7%	+27 (+14.9%) +0.5P
経常利益	203	224 <small>過去最高</small>	+20 (+10.0%)
特別利益	33	9	-24
特別損失	78	57 ※	-21
税前当期純利益	159	176 <small>過去最高</small>	+17
法人税等	111	92	-19
少数株主損益	-53	-17	+36
当期純利益 (当期純利益率)	100 2.9%	100 2.7%	+1 (+0.6%) -0.2P
配当	8 円/株	10 円/株 (予定)	+2 円/株

※ リチウムエナジー・ジャパン 減損損失 44億円

営業利益増減要因



3. セグメント別業績

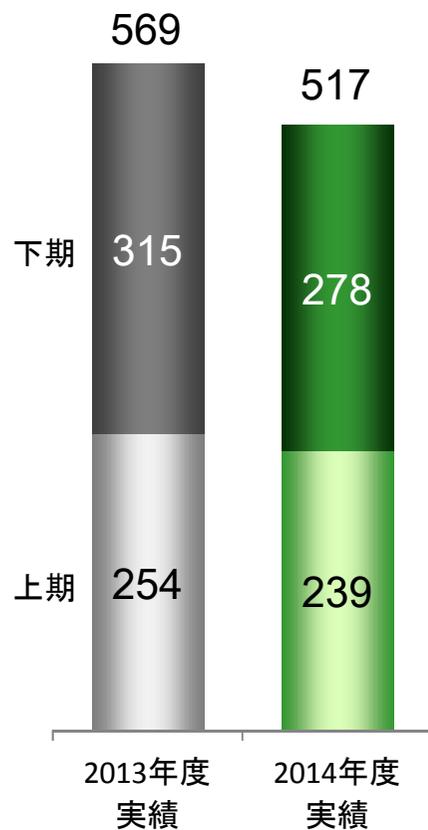
(億円)

	2013年度		2014年度		増減	
	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率)
国内自動車電池	569	33 (5.8)	517	24 (4.6)	-52	-9 (-1.2P)
国内産業電池電源	792	122 (15.4)	798	87 (10.8)	+6	-35 (-4.6P)
海外	1,643	90 (5.5)	1,838	108 (5.9)	+195	+18 (+0.4P)
リチウムイオン電池	325	-72 (-22.3)	452	-26 (-5.8)	+127	+46 (+16.5P)
その他	151	9 (6.2)	92	17 (18.4)	-58	+8 (+12.2P)
合計	3,480	182 (5.2)	3,698	209 (5.7)	+218	+27 (+0.5P)

国内自動車電池

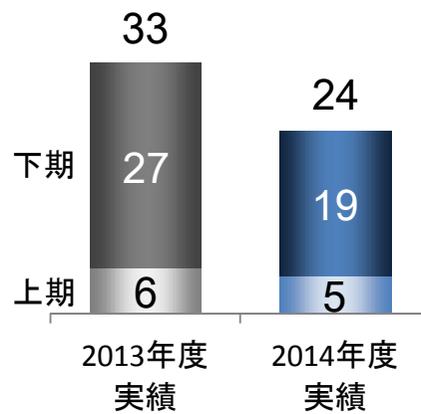
売上高

(億円)



営業利益

(億円)



2014年度商況

- 新車、補修とも総需要が減少したことにより販売減少
- 主要原材料である鉛価格上昇に伴い補修向け価格改定を実施
- 自動車関連部品(カーナビ等)の販売減少

増減益要因

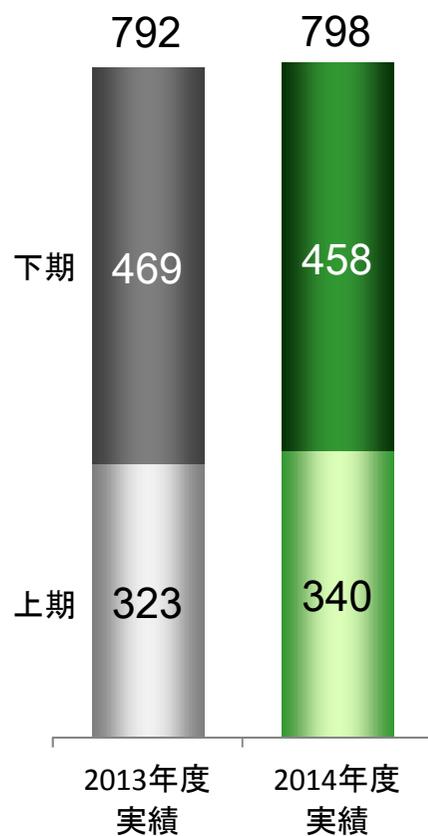
(億円)

数量	-14
鉛価格・売価	+8
人件費・費用等	-3

国内産業電池電源

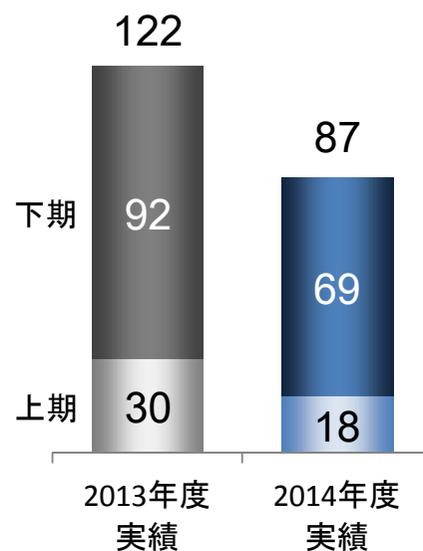
売上高

(億円)



営業利益

(億円)



2014年度商況

- 携帯電話の基地局向け電源装置の販売好調
- 太陽光発電設備用パワーコンディショナの販売が大幅減少
- フォークリフト用鉛蓄電池の販売が好調維持
- 照明・膜事業をその他より移管

増減益要因

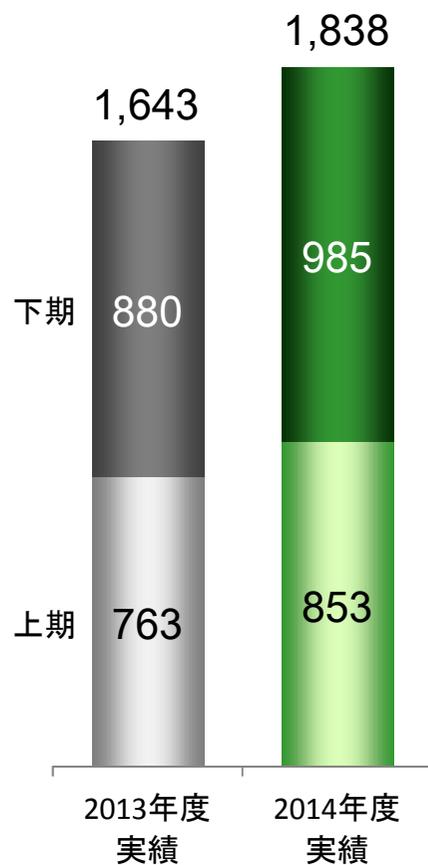
(億円)

数量	-19
鉛価格・売価	-8
人件費・費用等	-8

海外

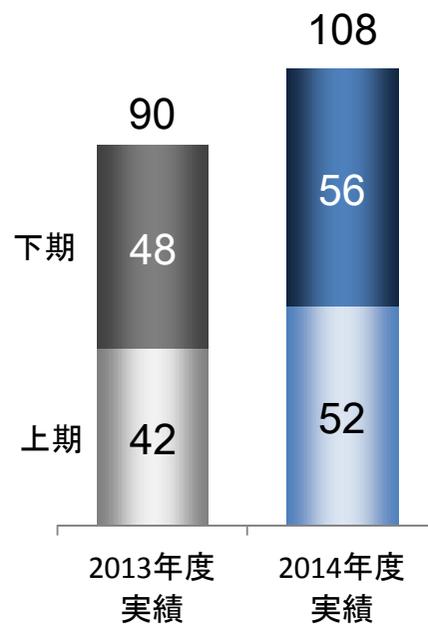
売上高

(億円)



営業利益

(億円)



2014年度商況

- 第3四半期よりインドネシアのグループ会社を連結子会社化
- タイのグループ会社を連結子会社化 (前期: 3四半期分、今期: 通年)
- 円安による影響により増収

増減益要因

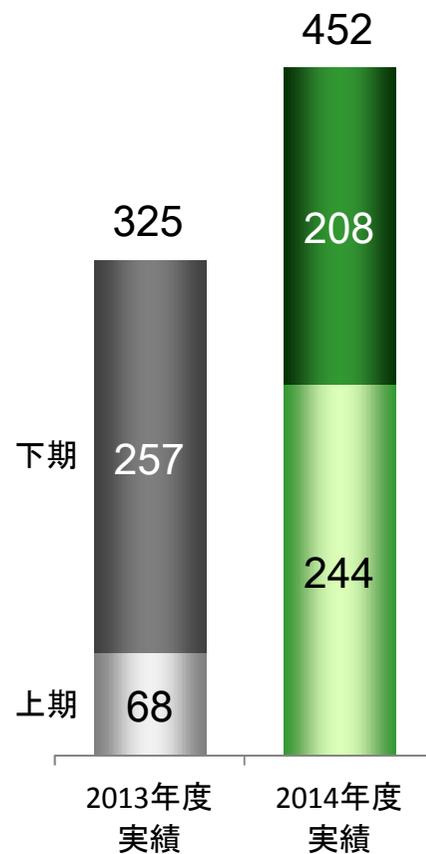
(億円)

数量	+9
鉛価格・売価	+15
人件費・費用	-10
為替	+4

リチウムイオン電池

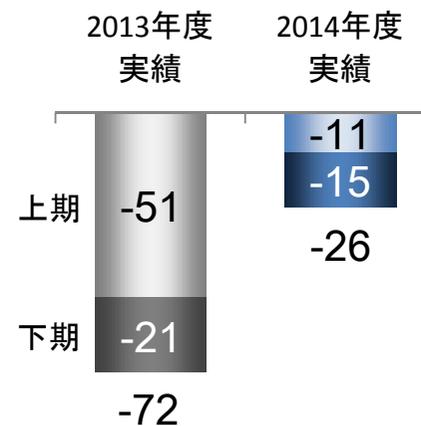
売上高

(億円)



営業利益

(億円)



2014年度商況

- プラグインハイブリッド車用およびハイブリッド車用リチウムイオン電池の販売増加

増減益要因

販売増加により利益改善

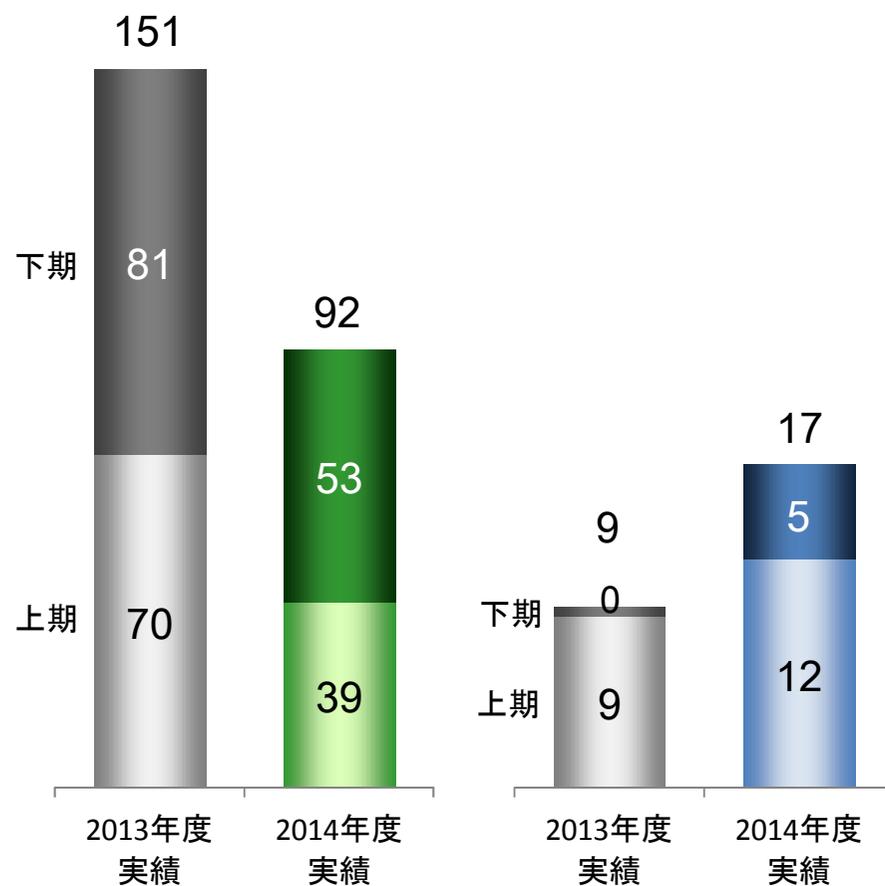
その他

売上高

(億円)

営業利益

(億円)



増減益要因

全社費用削減

4. 貸借対照表

(億円)

	2014/3末	2015/3末	増減額		2014/3末	2015/3末	増減額
流動資産	1,682	1,773	+ 90	負債	1,858	1,773	- 84
・現金及び預金			+ 71	・支払手形及び買掛金			- 61
・受取手形及び売掛金			+ 29	・設備関係支払手形			- 31
・有価証券			- 44	・未払法人税			- 37
				・繰延税金負債			+ 59
・たな卸資産			+ 35	・退職給付に係る負債			- 21
固定資産	1,722	1,822	+ 100	純資産	1,547	1,822	+ 275
・有形固定資産			- 45	・利益剰余金			+ 40
・投資有価証券			+ 71	・その他有価証券評価差額金			+ 28
				・為替換算調整勘定			+ 80
・退職給付に係る資産			+ 69	・退職給付に係る調整累計額			+ 62
				・少数株主持分			+ 56
資産	3,405	3,595	+ 191	負債・純資産	3,405	3,595	+ 191

資金運用の変化

株式市況の好転 +37
持分法投資利益 +20

年金資産運用良化

株高・円安の影響

TBPの連結子会社化 +62

	2014/3末	2015/3末
自己資本比率	41.0%	44.9%
ROE(自己資本当期純利益率)	7.5%	6.7%

5. 設備投資・減価償却費・研究開発費

(億円)

	2013年度	2014年度
設備投資額	186	110
リチウムイオン電池事業	69	19
海外事業	57	40
国内既存事業、その他	60	51
減価償却費	129	157
内、リチウムイオン電池	50	60
研究開発費	65	67
(売上高研究開発費率)	(1.9%)	(1.8%)

6. キャッシュ・フロー計算書

(億円)

営業C/F 197

・税金等調整前利益	176
・減価償却費	163
・減損損失	44
・仕入債務の減少	-93
・法人税等の支払	-107

投資C/F -145

・有形固定資産取得	-148
-----------	------

財務C/F -58

・借入金の減少	-56
・配当金の支払	-45
・連結子会社増資に伴う 少数株主からの収入	64

現金および現金同等物の残高

期首	234	期末	257
----	-----	----	-----

フリーC/F ※1 52**キャッシュ・フロー対有利子負債比率(年) ※2 4.3****ポイント**

- 営業C/Fは3期連続200億円水準を確保できた。
- リチウムイオン電池への投資がピークアウトしてフリーC/Fが52億円となり、その結果、財務C/Fが減少した。

※1: 営業活動によるC/Fと投資活動によるC/Fの合計 ※2: 有利子負債(リース債務含む)/営業活動キャッシュ・フロー

I . 2015年3月期決算状況

- | | |
|---------------------|------|
| 1. 業績の概要 | P.03 |
| 2. 売上高・利益 | P.04 |
| 3. セグメント別業績 | P.06 |
| 4. 貸借対照表 | P.12 |
| 5. 設備投資・減価償却費・研究開発費 | P.13 |
| 6. キャッシュ・フロー計算書 | P.14 |

II . 2016年3月期業績予想

- | | |
|---------------------|------|
| 1. 経営の基本方針と重点課題 | P.16 |
| 2. 売上高・利益 | P.17 |
| 3. 経営目標 | P.18 |
| 4. セグメント別業績 | P.19 |
| 5. 設備投資・減価償却費・研究開発費 | P.20 |
| 6. セグメント別事業課題 | P.21 |

III . コーポレートガバナンス

- | | |
|----------------|------|
| 1. 社外取締役・買収防衛策 | P.30 |
|----------------|------|

1. 経営の基本方針と重点課題

経営の基本方針

- 品質重視を事業活動の原点とし、お客様に安心と信頼を提供
- 自動車電池・産業電池電源・海外事業の収益拡大と事業領域の拡張
- リチウムイオン電池事業の自立・安定化を図り黒字化を達成

重点課題

国内自動車電池

付加価値製品の拡販と合理化推進により収益を確保

国内産業電池電源

事業領域拡大のため、新市場・新技術・新商品への取り組み強化

海外

アセアン市場での事業拡大と収益拡大、成長市場および未参入市場での事業育成

リチウムイオン電池

品質を重視し、事業の自立と安定化を図る

2. 売上高・利益

(億円)

	2014年度 実績	2015年度 計画	増減
売上高	3,698	4,000	+302
営業利益	209	240	+31
(営業利益率)	5.7%	6.0%	+0.3P
経常利益	224	250	+26
当期純利益	100	130	+30
(当期純利益率)	2.7%	3.3%	+0.6P
配当	10 円/株 (予定)	10 円/株 (予想)	±0 円/株
国内鉛建値(万円 / t)	28.12	29	-
LME(US\$ / t)	2,096	2,000	-
為替(円 / US\$)	106.46	115	-

3. 経営目標

	2013年度 実績	2014年度 実績	2015年度 計画	第三次中期計画 (2015年度)
売上高	3,480	3,698	4,000	4,500
営業利益率	5.2%	5.7%	6.0%	8.0%
当期純利益率	2.9%	2.7%	3.3%	5.0%
ROE (自己資本当期純利益率)	7.5%	6.7%	8%	15%以上
キャッシュ・フロー対 有利子負債比率(年)※	4.2	4.3	2.5	2.0以下

※ 有利子負債(リース債務含む)／営業キャッシュ・フロー

4. セグメント別業績

(億円)

	2013年度		2014年度		2015年度		第三次中期計画 (2015年度)	
	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)
国内自動車電池	569	33 (5.8)	517	24 (4.6)	520	30 (5.8)	620	65 (10.5)
国内産業電池電源	792	122 (15.4)	798	87 (10.8)	810	90 (11.1)	870	125 (14.4)
海外	1,643	90 (5.5)	1,838	108 (5.9)	2,180	120 (5.5)	2,280	155 (6.8)
リチウムイオン電池	325	-72 (-22.3)	452	-26 (-5.8)	400	0 (0.0)	600	10 (1.7)
その他	151	9 (6.2)	92	17 (18.4)	90	0 (0.0)	130	5 (3.8)
合計	3,480	182 (5.2)	3,698	209 (5.7)	4,000	240 (6.0)	4,500	360 (8.0)

5. 設備投資・減価償却費・研究開発費

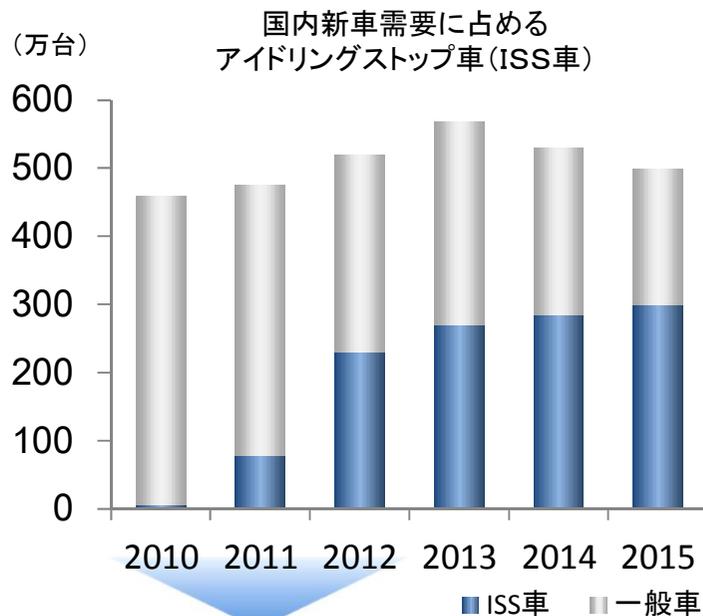
(億円)

	2013年度	2014年度	2015年度	3カ年合計	第三次中期計画 (3カ年合計)
設備投資額	186	110	170	466	600
リチウムイオン電池事業	69	19	34	122	120
海外事業	57	40	55	152	260
国内既存事業、その他	60	51	81	192	220
減価償却費	129	157	170	456	410
内、リチウムイオン電池	50	60	62	172	160
研究開発費	65	67	70	202	—
売上高研究開発費率	1.9%	1.8%	1.8%	1.8%	—

6. セグメント別事業課題

国内自動車電池

➤ 高付加価値商品の拡販



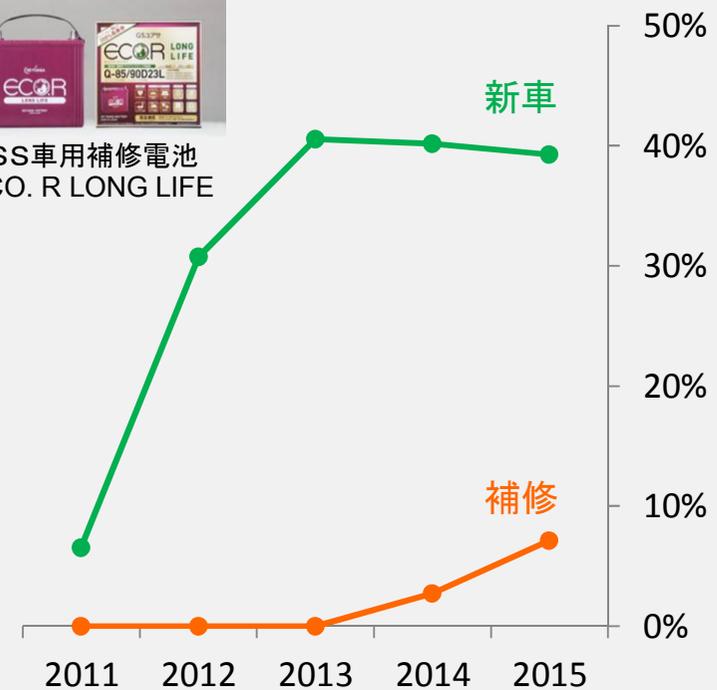
車齢 3~5年目

蓄電池交換

ISS車用電池の販売 (当社の新車・補修販売に対する構成比)



ISS車用補修電池
ECO. R LONG LIFE

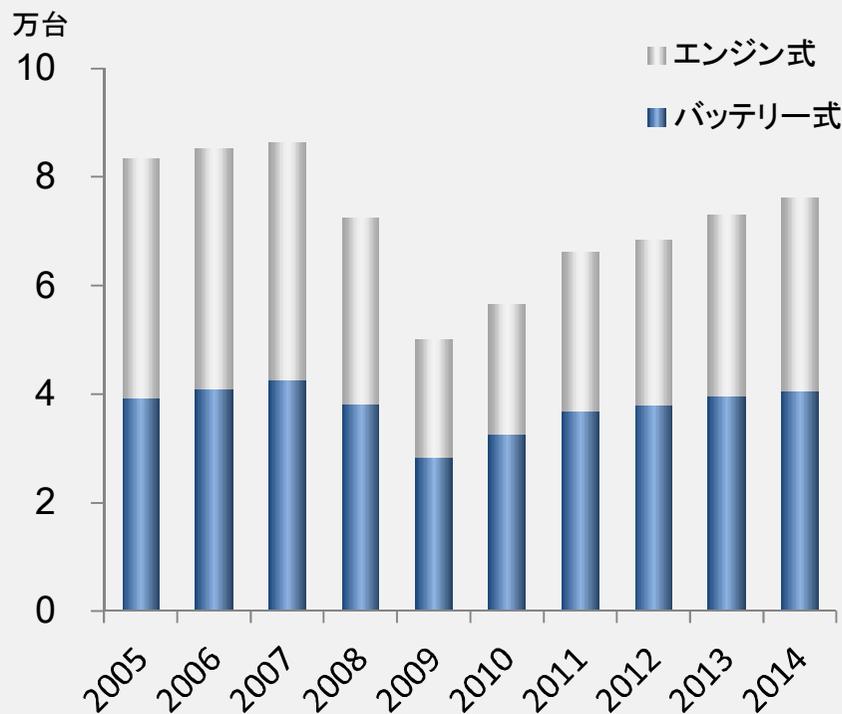


6. セグメント別事業課題

国内産業電池電源

➤ フォークリフト用鉛蓄電池の販売強化

フォークリフトの国内販売台数



2006年

公道を走行しない特定特殊自動車の
排出ガス規制開始
(オフロード法)

2011年、2014年

排出ガス規制の強化

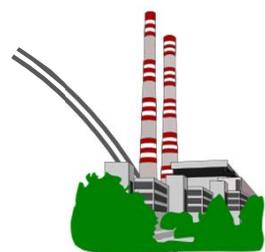
2015年以降

バッテリー式への移行加速

6. セグメント別事業課題

国内産業電池電源

蓄電システムの販売強化、ラインナップ拡充



系統 (電力会社)

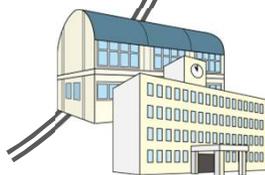
- 軽負荷期の余剰電力蓄電
- 急激な出力変動の調整



発電事業者 (民間企業)

- 出力制御時の発電電力貯蔵
- 夜間停電時の電力確保

再エネ接続保留緊急対応補助金



避難所・防災拠点 (地方公共団体)

- 大規模災害時の電力確保
- 低炭素な地域づくり

グリーンニューディール基金

蓄電システム対応(電池付き) パワーコンディショナ

小容量タイプ
4.5kW



パワーソーラーⅢ

中容量タイプ
10～50kW



ラインバックΣⅢ

大容量タイプ
100, 250kW



開発中

産業用 リチウムイオン電池



LIM50Eシリーズ

鉛蓄電池 (サイクル用)



SLRシリーズ

近日
発売

6. セグメント別事業課題

海外

➤ 海外における事業領域の拡大

- ✓ 発展地域における販売物量の拡大
- ✓ インドネシアの持分法適用非連結子会社を2014年度第3四半期より連結子会社化
- ✓ 拠点空白地域の対応検討

全世界 16カ国 35拠点

(2015年5月現在)

アジア地域 8カ国 24拠点



- 生産拠点(連結)
- 生産拠点(持分法・関連会社)
- テクニカルセンター
- 販売拠点(連結)
- 販売拠点(持分法・関連会社)

2014年度シェア

※ 当社推定

全世界

自動車用

7% 33百万個



オートバイ用

24% 53百万個



アジア

自動車用

17% 20百万個



オートバイ用

28% 46百万個



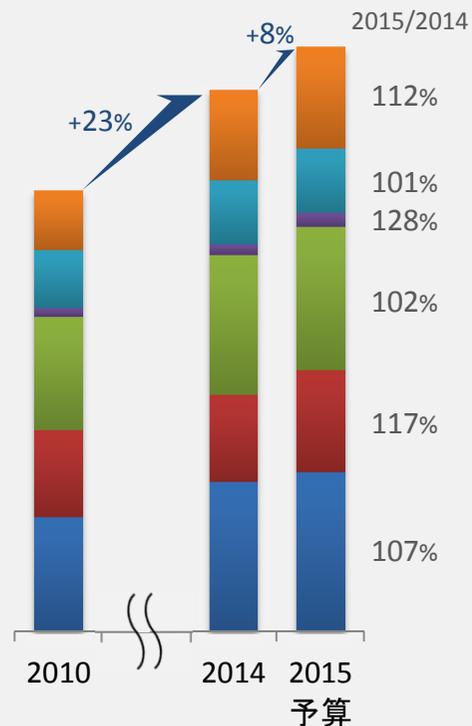
海外

地域別売上高構成

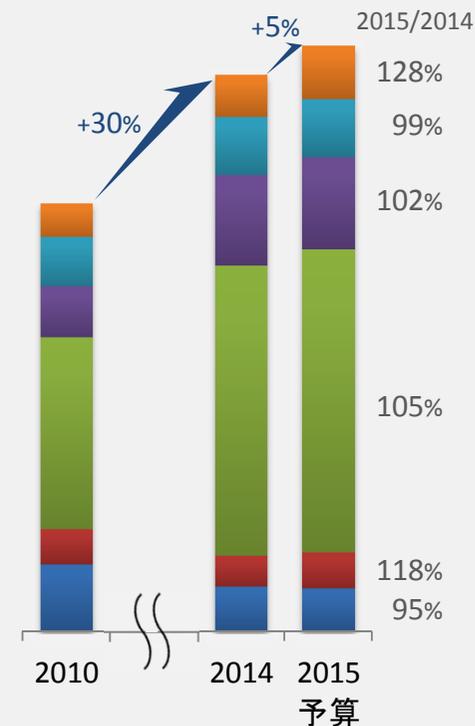
	2010	2014
日本	56.0%	47.6%
アジア	21.6%	30.5%
欧州	10.1%	10.5%
北米	5.0%	4.4%
他	7.3%	7.0%

アジア主要国の出荷量推移

自動車用鉛蓄電池



オートバイ用鉛蓄電池

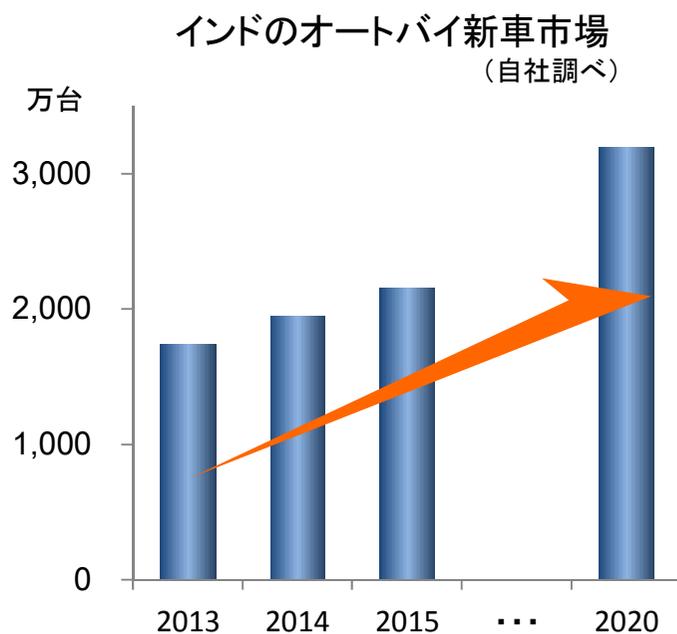


■ 中国 ■ タイ ■ インドネシア ■ ベトナム ■ 台湾 ■ その他

6. セグメント別事業課題

海外

➤ インドにおけるオートバイ用鉛蓄電池の事業拡大



タタオートコンプGYバッテリー社
(インドの関連会社)

2015年

オートバイ用鉛蓄電池の生産開始

生産能力 **120** 万個/年

2016年

生産ライン増設

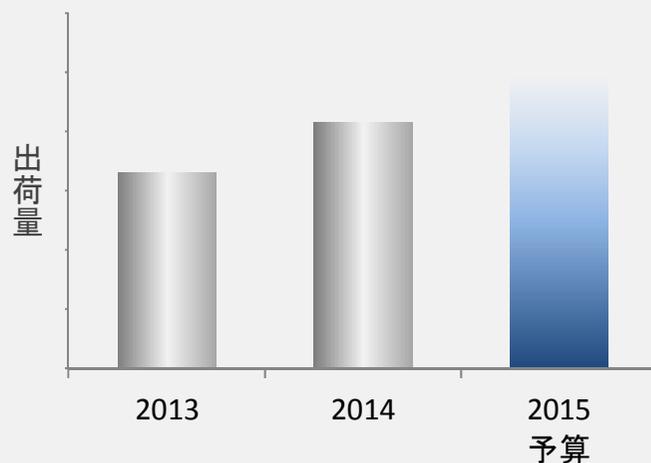
生産能力 **240** 万個/年

6. セグメント別事業課題

リチウムイオン電池

➤ 外部環境の変化に対応し、セグメント黒字化を目指す

リチウムエネルギー ジャパン

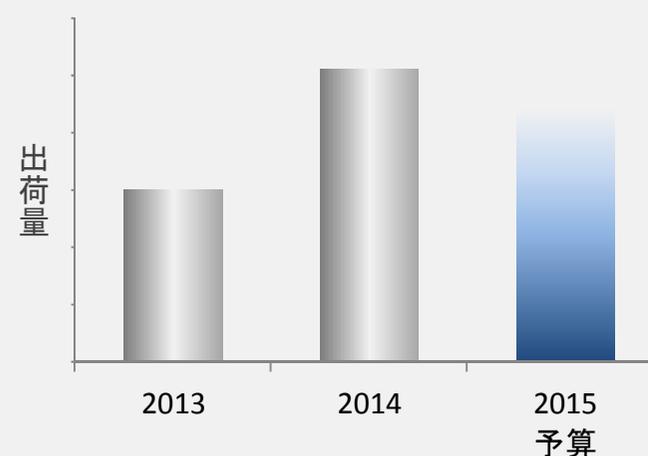


物量増加を背景に
購買合理化を推進

パートナーと協力し
生産性向上

収益性
大幅改善

ブルーエネルギー



顧客HEV車販売減少により
一時的に物量減少

体質改革活動の強化
(歩留向上と経費削減)

収益
確保

リチウムイオン電池

➤ リチウムエネルギー アンド パワー (LEAP) の状況



I . 2015年3月期決算状況

- | | |
|---------------------|------|
| 1. 業績の概要 | P.03 |
| 2. 売上高・利益 | P.04 |
| 3. セグメント別業績 | P.06 |
| 4. 貸借対照表 | P.12 |
| 5. 設備投資・減価償却費・研究開発費 | P.13 |
| 6. キャッシュ・フロー計算書 | P.14 |

II . 2016年3月期業績予想

- | | |
|---------------------|------|
| 1. 経営の基本方針と重点課題 | P.16 |
| 2. 売上高・利益 | P.17 |
| 3. 経営目標 | P.18 |
| 4. セグメント別業績 | P.19 |
| 5. 設備投資・減価償却費・研究開発費 | P.20 |
| 6. セグメント別事業課題 | P.21 |

III . コーポレートガバナンス

- | | |
|----------------|------|
| 1. 社外取締役・買収防衛策 | P.30 |
|----------------|------|

社外取締役候補者の選任

経営の透明性向上、コーポレートガバナンス体制の更なる強化のため
社外取締役導入を検討

実質的なガバナンス体制の充実が得られるよう
社内基盤整備を推進

社外取締役候補者の選任

おおにし ひろふみ

大西 寛文 (昭和21年1月1日生)

—略歴—

- 1975年 3月 公認会計士登録
- 1993年 5月 監査法人トーマツ 代表社員
- 2001年 6月 日本公認会計士協会近畿会 会長
- 2001年 7月 日本公認会計士協会本部 副会長
- 2006年 4月 立命館大学大学院経営管理研究科 教授
- 2011年 6月 積水化学工業(株) 社外監査役 (現任)

買収防衛策の継続的導入

継続的導入の目的

企業価値、株主共同利益を毀損するおそれのある
不適切な大規模買付けに対して

- 株主の皆様へ情報提供を行うルール設定
- 対抗措置の事前取り決め

買収防衛策

- 新株予約権の無償割当て方式
- 独立した企業価値評価委員会の設置
買付者の情報と当社取締役会の情報を比較検討
- 有効期間2年間

今回の改善点

機関投資家等の議決権行使基準を踏まえて

- 合理性、公正性、透明性を向上

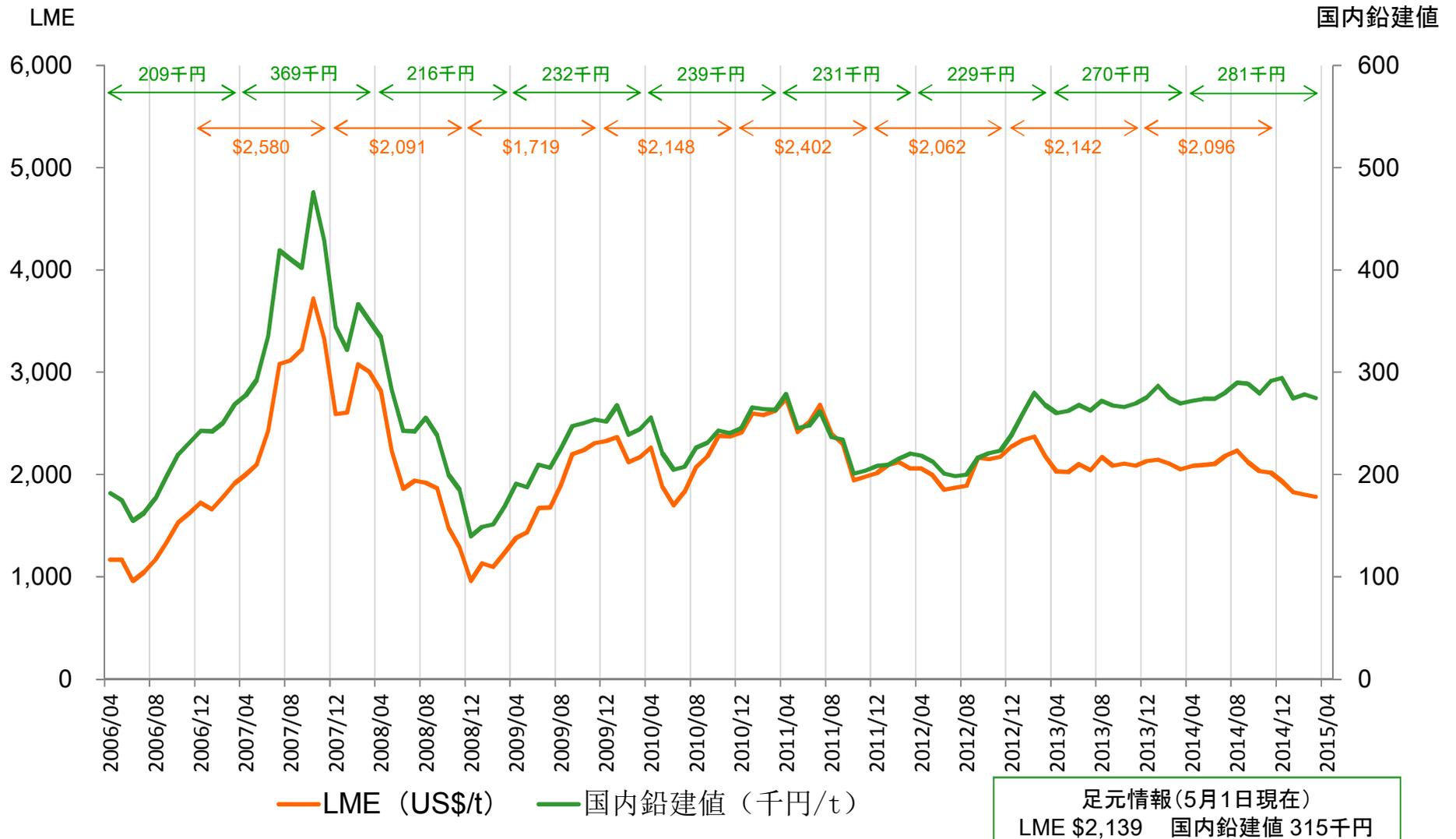
本資料は、当社グループの業績等についての一般的な情報提供を目的とするものです。本書に含まれる予測、予想、計画その他の将来情報は、当社において利用可能な情報に基づく現時点における当社の認識又は判断に基づくものであり、実際の結果はこれらの情報と大きく異なることがあります。また、当社は、本資料に記載された情報に変更又は更新があった場合にも、その内容を提供又は開示する義務を負うものではありません。



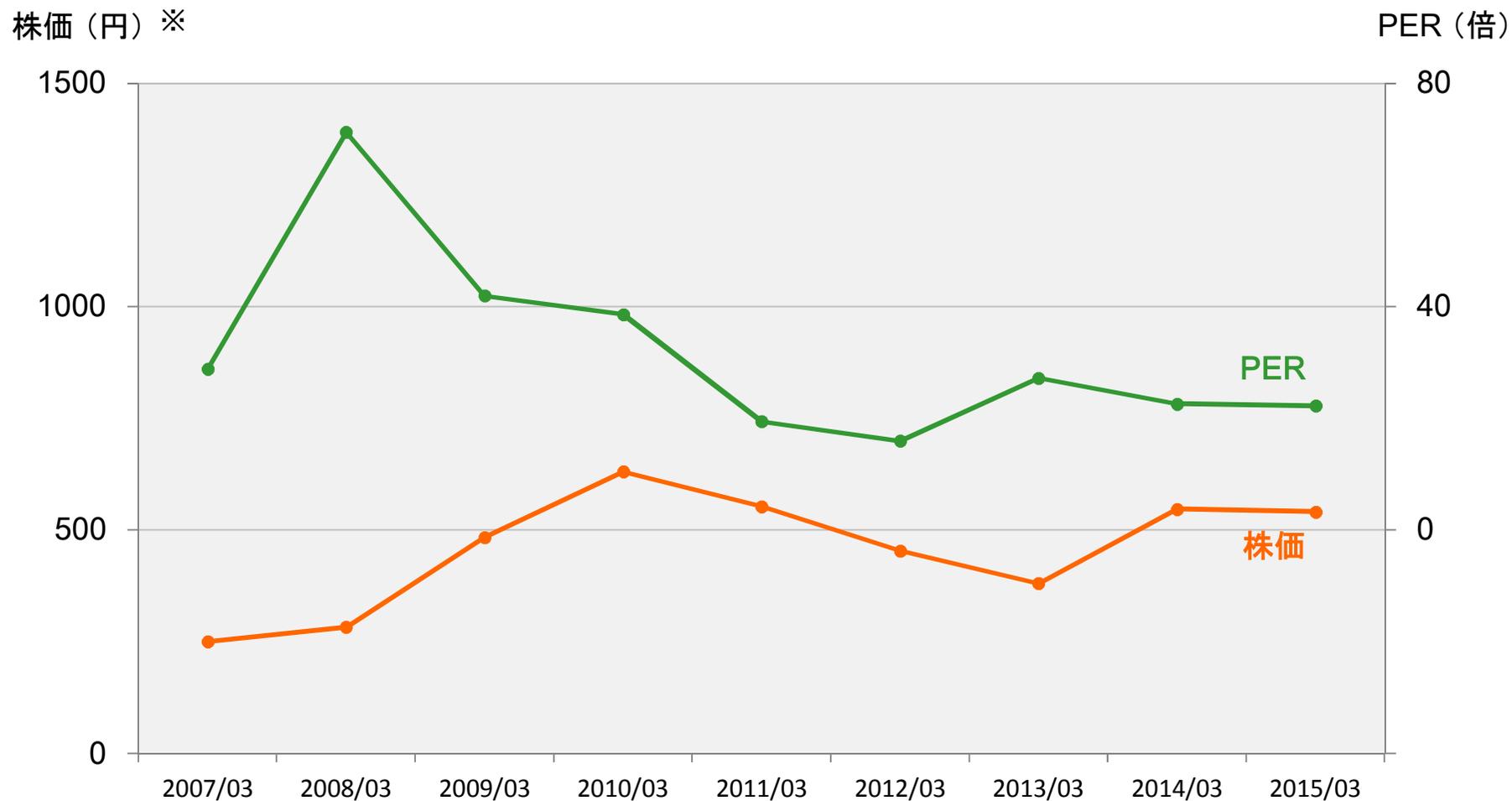
連絡先

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション
コーポレート室(広報) 中野 宏治 ・ 大道 由加 ・ 柿島 辰年
Tel : 075-312-1214
<http://www.gs-yuasa.com/jp>

原材料価格の推移



株価、株価収益率(PER)の推移



※ 3月最終営業日の終値

自己資本当期純利益率(ROE)、1株当たり当期純利益(EPS)、配当

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
ROE (%)	11.2	10.5	4.8	7.5	6.7	8
EPS (円)	28.39	28.42	13.97	24.18	24.33	31.5
1株当たり配当額 (円)	8	8	6	8	10(予定)	10(予想)
配当性向 (%)	28.2	28.1	42.9	33.1	41.1	31.8

有利子負債、D/Eレシオ、自己資本比率、キャッシュフロー対有利子負債比率

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
有利子負債 (億円)	483	561	717	801	822	750
D/Eレシオ (倍)	0.43	0.55	0.62	0.64	0.63	0.55
自己資本比率 (%)	43.8	41.3	43.2	41.0	44.9	45.0
キャッシュフロー対有利子負債比率 (年)	1.9	8.0	4.0	4.2	4.3	2.5